

# 令和6年能登半島地震における気象庁の取組

令和6年2月5日  
「和歌山県防災会議」報告資料

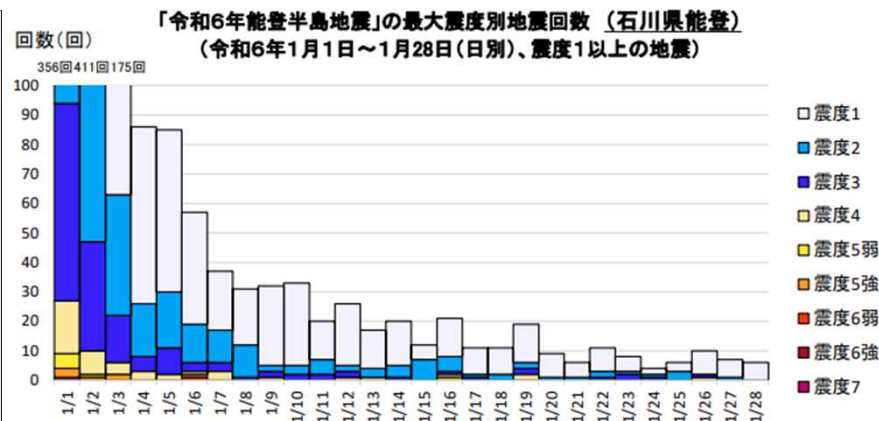
## 地震発生状況

### 【概要】

令和6年1月1日16時10分、石川県能登地方（深さ16km）を震源とする深さマグニチュード7.6が発生しました。石川県の志賀町（しかまち）、輪島市（わじまし）で震度7を観測したほか、北海道から九州地方にかけて震度6強～1を観測した。

また、この地震に伴い、山形県から福井県、兵庫県北部の日本海沿岸に津波警報を発表し、一時、石川県能登には大津波警報を発表した。

1月1日以降、地震の発生数は増減を繰り返しながら大局的には緩やかに減少しているが、地震活動は活発な状況が続いている。今回の地震の活動域は、能登半島及びその北東側の海域を中心とする北東－南西に延びる150 km程度の範囲に広がっている。



令和6年1月29日「令和6年能登半島地震」について（第15報）より

## JMA-MOT（気象庁機動調査班）による現地調査と観測の継続

～正確な情報を提供し、適切な観測を継続～

JMA-MOT（気象庁機動調査班）を派遣し、令和6年1月1日16時10分の石川県能登地方の地震発生以降、震度5強以上が観測された震度観測点、81地点の観測環境について現地調査を実施した。異常が認められた3つの震度観測点は、地震情報への利用を停止した。また、津波観測点付近や津波による顕著な被害があった地点において津波の痕跡等を調査した。なお、観測データに欠測が生じていた「輪島港」（港湾局所管）の津波観測施設について、現在「機動型津波観測装置」を設置し、観測を行っている。

## JETT(気象庁防災対応支援チーム)の派遣

～気象台における地方公共団体の防災対策への支援～

地震発生後、政府現地対策本部、石川県を始めとして被害が大きい市町を中心に、地元気象台及び全国より職員を派遣し、地震・気象の解説を実施している。和歌山地方気象台においても気象庁、大阪管区気象台の指示の下、現地へ職員を派遣する体制をとっている（2月5日現在）。

## 令和6年能登半島地震に関するポータルサイトの開設

～現地での復旧活動を支援～



本ポータルサイトは、被災された方や現地で支援にあたる方のために被災地の天気予報等をまとめたものです。また、各関係機関が派遣されている職員の安全管理や後方支援などにも活用してください。



○「被災地等への支援情報（令和6年能登半島地震の関連情報）」

[https://www.jma.go.jp/jma/menu/20240101\\_noto\\_jishin.html](https://www.jma.go.jp/jma/menu/20240101_noto_jishin.html)